

科目名	日本語の表現	
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	言葉で「表現」することによって、私たちは自己を表現し、他者やこの世界の出来事を理解している。だが、「表現」の仕方には多くの方法がある。そこで、身の回りにあふれている日本語の表現方法を探り、実際の表現方法の特徴を見出す分析力を養うことをめざす。また、実際に表現活動を行い、表現力を磨いていく。
	到達目標	1. 手紙やビジネス文書など、実用文が書けるようになる。 2. 小説や詩などの文芸文・感想文・意見文など、様々な文章表現の特徴を理解し、自己表現の手だての一つとして会得する。 3. 様々な音声表現の特徴を理解し、実践できるようになる。 4. 文芸作品や作家の表現の特徴を見出すことができるようになる。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 文章表現における表記上の注意点 (3) 感想文の文章表現 (4) 意見文の文章表現 (5) エッセイの文章表現 (6) 論文の文章表現 (7) 小説の文章表現 (8) 詩・短歌・俳句の文章表現 (9) 手紙・ビジネス文書の文章表現 (10) 新聞・広告・雑誌の文章表現 (11) ビジネス会話（電話の受け答えなど）の音声表現 (12) プレゼンテーションの音声表現 (13) スピーチの音声表現 (14) 落語などの話芸の音声表現 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容をよく復習すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】長谷川泉『国語表現ハンドブック 新訂版』明治書院、2000年、ISBN 4625200040 【参】大本泉他編『日本語表現—演習と発展— 改訂版』明治書院、2011年、ISBN 4625704081	
成績評価方法と基準	<基準>文章表現の特徴を理解し、実用文・文芸文・感想文・意見文などを書いたり、創作・表現したりすることができる。音声表現の特徴を理解し、実践できる。文芸作品または作家の表現の特徴を自ら見出すことができる。 <方法>最終レポート30%、各種レポート60%、受講態度10% ただし、レポート類をすべて提出することを単位取得の条件とする。	
備考		